

ロボットとの対話

二年 大北 隼矢

この世界にはたくさん宇宙があるという
「マルチバース（多元宇宙）論」が立証され
てから、はや五〇〇年。

地球人は、星交（国交）をひらくために、
めっちゃくちゃ遠い別の宇宙へ行くようになった
こいた。

これほどの未来にたつてくると、何年何万
の星に住む宇宙人と会話をしなくちゃいけな
い。

もはや、宇宙人とコミュニケーションを交
わすための親善大使を選抜してはいられない。
というわけで、今回、ぼくは裁判員制度のよ
うなものでランダムに選ばれた。いち親善大
使として、ロボット（ＡＩ）と、別の宇宙へ
向かっていくというわけだ。

ロボットは頭がいいの話を聞いて飽きな
い。

「考えは言葉となり、言葉は行動となり、

行動は習慣となり、習慣は人格となり、人格

は運命となる、といった偉人は誰でしょう

「心理学者ウィリアム・ジエームスの言葉

である。イギリスの元首相マーガレット・サ

ッチャーや、マザー・テレサも似たような言

葉を残しています」

「正解。さすがだね」

「これは、私が生まれる時に教えられたもの
の一つです」

今の世の中、宇宙進出をしていることもあ

り、ロボットをしなければならぬらしい。

今では、おびただしい数のロボットに囲ま
れて生活している。

「ロボットが自分より賢くなると、人間がコ

ントロールできなくなるのではなにか」

はるか昔から、学者がマンが家の手塚治

虫までもが恐れていた現実が来ないように、

ロボットが暴走しないように、AIの製造過

程で絶対に教え込め道徳や哲学、武士道によ

うなものがある。ヤキ話していたこと

は、その中の一つなのだろう。他にも、例えば、「宰相プタハへテアの教訓」というものを教え込まれる。

「知識があるからといって、ごう慢になることはいけない。人の上立つものは、あらゆる行いをマアト（正義や真実）に従って行う。人を中傷してはいけない」

賢い頭脳を持つロボットは、人間と違っ決して忘れたりほしなす。

→星交の「ための資料を書かない」と

「もうあぐしめ切りであわね」

「やばい、間に合わないよ」

「しめ切りの心理学を知っていままか。あ

りかじめ知らさぬさい左にもかかわらぬ、し

め切りに間に合あなかつたり、間に合ったと

してもギリギリになったりあることがありま

あよね。それは、「自我防衛規制」が働いて

いるからだそうだよ。乗り越えるためには

細かく目標を設定すればいいと思うよ」

「もう違いいけどね」

「がんばってください。ちなみに、ロボットに守れないしめ切りはありません」

作業をしながら、会話は続く。

「ロボットは、映画やアニメの鑑賞がむず

かしいって聞いたけど、本当なの？」

どこかで読んだ本に、人間と違う性質の脳

を持つロボットは、一つ一つのコマがバラバ

ラの画面に見えて、そこにある連続した動き

が見えないと書いてあったのだ。

「いいえ。今はそんなことないですが、現

実で見ると劇やニコシカルの方が好きですね」

地球のロボット技術がこれほどまでに進化

したのは、宇宙のおかげだといつても過言で

はない。

ロケット開発から耐震性の建築材料が生

れたように、宇宙食の技術が非常食に活用さ

れたように、無重力の実験が動物医療を発展

させたように、宇宙での様々な研究の集大成

が、目の前にいるロボットなのだ。

「さあ。ワームホールを扱けると、いよいよ

よ別の宇宙ごちよし

感情がないといわれているロボットだが、
 なんだか嬉しそうに望遠鏡をのぞいている。

「親善大使も忙しくなりましたね。宇宙は広
 く、 N (宇宙人がいる確率) $\times R \times$ (銀河系
 で毎年生まれる恒星の数) $\times f_p$ (恒星が惑
 星をもつ確率) $\times N_e$ (生命が生まれそうな
 惑星の数の平均) $\times f_i$ (惑星で生命が生ま
 れる確率) $\times f_c$ (その生命が知的生物に進
 化する確率) $\times f_l$ (その知的生物が他の星
 に通信できる確率) $\times f_r$ (その知的生物の文
 明が続いていく期間) であらう」

「そんなの、分かんないよ」

スラスラとドレイクの方程式を口にある口
 ボットにぼくは突っ込みおにはいらぬなかっ
 た。

しめ切りに追おえても、目的地に着き
 そろになつても、ぼくとロボットの対話は尽
 きそうもない。